

2016年 展覧会

国内個展

- 1月2日(土)~12日(火)
熊本鶴屋百貨店 美術画廊
- 2月10日(水)~16日(火)
博多大丸 アートギャラリー
- 4月1日(金)~29日(金)
板室温泉 大黒屋 (栃木)
- 5月11日(水)~17日(火)
大阪高島屋 ガラリー NEXT
- 5月25日(水)~31日(火)
JR名古屋高島屋 美術画廊
- 6月15日(水)~21日(火)
横浜高島屋 美術画廊
- 7月13日(水)~19日(火)
仙台三越 アートギャラリー
- 11月17日(木)~23日(水)
大分トキハ本店 画廊

アートフェア 海外展

- 6月29日(水)~7月6日(水)
MASTERPIECE (ロンドン)
- 12月
ART KAOHSIUNG (台湾 高雄)

Nishinaka Yukito Glass Studio

〒299-4104 千葉県茂原市南吉田 2967 TEL: 0475-34-7850
http://nishinaka.com e-mail: ichiban@nishinaka.com



西中千人通信

2016年 早春号

器にとって致命的なヒビ割れに
美を発見した茶の湯の先達。
それは影を以って光を表すように
ヒビを以って命の輝きを表現しようと
したのではないだろうか。

先人の豊かな感性に魅せられ
自身の呼継に取り組んでいます。

欠点さえも個性、魅力ととらえ、
新たな美を創り出す。

常識を疑い、既成概念に捉われず
閉塞の壁を叩き壊す。
その精神こそが『継ぎの美学』。

日本の美意識を深く追求し、
その精神を形にして
世界に発信してまいります。

西中千人

Art Fair COLLECT

2015年5月8日~11日
SAATCHI GALLERY, LONDON



世界トップレベルのギャラリーが集まる
アートフェア「COLLECT」が
ロンドンのサーチギャラリーで開催され、
「呼継」を主に18点を出品させていただきました。
VIP プレビュー には欧州各国、米国をはじめ
世界中から沢山のお客様が詰めかけられました。
アーティストトークでは 私の創作活動の
礎となる日本の文化的背景として、
禪、不完全の美についての話をさせていただき、
お客様は「ガラスの呼継」の奥にある
ストーリーに興味深く耳を傾けてくださいました。
トークの後は質問も飛び交い、異文化の中で
より深い理解を得た手応えが感じられました。
日本独自の美意識を礎とした
新しいガラスアートが、世界中のコレクターから
共感を得られた5日間でした。

"V&A magazine"
(ヴィクトリア&アルバート博物館)
"CRAFT magazine" に
「COLLECT」の顔として掲載
されました。



EXHIBITIONS 展覧会



呼継と光の庭 西中千人 ガラス展

2015年6月17日~23日 日本橋高島屋 美術画廊

重要文化財 日本橋高島屋ビル、「昭和建築の華」と称される建物内に
ガラスの日本庭園「光の庭」を制作させていただきました。
普段は真白で四角い美術画廊スペースに、自然の一部を切り取り
持ち込みました。
水を含んだ苔の匂い、節目が綺麗な
竹垣、そして光のような水のような
ガラスの輝きを取り入れることで、
都市で生活するヒトが、普段の
時の流れを変え自然と調和し、
自身が自然の一部であると
認識できるのが「光の庭」です。
この先、異国で苔に覆われた
ガラスの躊躇が太陽光を受け輝く姿に再会するのが楽しみです。



龍村美術織物 四代 龍村平蔵氏 × 西中千人

2015年6月20日 日本橋高島屋 美術画廊



TALK 対談



正倉院裂や名物裂の復元と新しい創作を
織の世界で探求される龍村氏と対談させて
いただきました。
龍村氏には、ガラスをテーマに織の表現を
追求された帯をお持ちいただきました。
二人の共通点となる「ガラス」「光」「透明」を
キーワードに、龍村氏からは、透明な光の
プリズムを表現するのに30色もの色糸を
使うという驚きの技や、平面に近い帯に
カットガラスの立体感を

織り込む概念などをお聞きしました。
私は、織田有楽斎が残した歴史的な呼継茶碗の
精神性や時代背景について、
またガラスの呼継が異文化の中でどう理解
されるのか等をお話しさせていただきました。
表現の基礎となる思想や他の意外な共通点と、
光とガラスの密接な関係や人間に与える影響を
再確認したイベントでした。



美術評論家 森孝一先生 × 西中千人

2015年4月8日 ニシナカユキト GLASS STUDIO

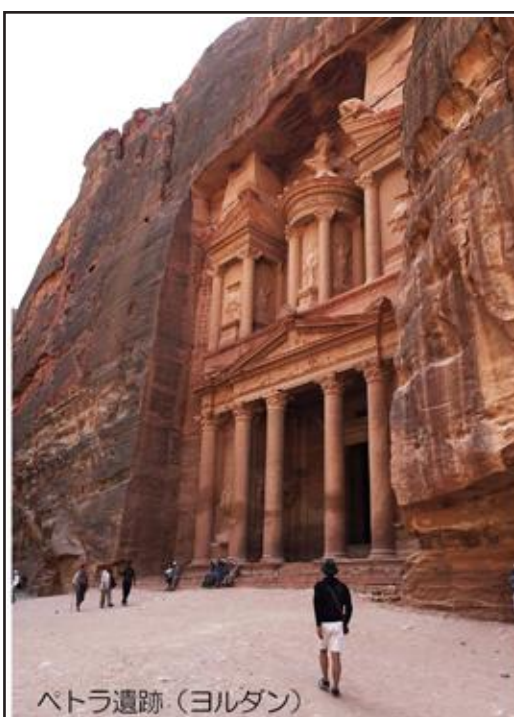
アートコレクターズ
(生活の反社)
2015年6月号より抜粋



森 石の文化は永遠性を求めます。土の文化は流動的で変化を求め
ます。お話を聞いてみると、鑄込みの技術はまるで石のようで、
吹きガラスは土のようですね。
西中 二酸化ケイ素というのは、地球でもっとも多い素材です。
だから、地球のかけらを溶かして、私はガラスを作っています。
森 その表現いいですね。
日本という小さな島国で生まれた西中さんのガラスアートを、
是非とも世界に通用する地球規模のアートにして下さい。
西中 ミクロとマクロの世界が、ずつと繋がっていくというこ
とですね。やきものも一緒だと思うのですが、「割れる」ということ
に対して最初はすくく拒絶感があった。日本には割れたものを「緊く
という文化があつて、それは日本独自の美意識だと思つたのですが、
日本人は割れたものになんで美を見出したんでしょうか。
これは、他の国にはない文化ですね。
森 割れたものというか、欠けたものに美を見出すことは確かです。
信楽の壺なんかは、使つていくうちに必ず口が欠けますから、欠けて
いる方が自然だとコレクターの方はいいいます。だから、欠けてい
る方が完全で、欠けていないと不完全と思つたのでしょうか。
西中 このヒビもそうなんです、色でも金でもなくて隙間
(すきま)なんです。等伯の「松林図屏風」も、
もしかしたらこれかなと、最近では思つているんです。
森 西中さんの色でも金でもないヒビは、まさに空間だと思います。

生まれ変わる

アート一辺倒の日々から離れて
2015年10月3日~11月2日



ヘトラ遺跡 (ヨルダン)



ハハラ城塞 (オマーン)



スリ マハリアマン寺院 (クアラルンプール)

自分自身の内と外、過去と未来、
そして、この世界をじっくり見つめる
ための旅に出た。
土を耕し、肥やしをやるように、
脳ミソをマッサージし栄養を与える。
知らず知らずのうちに作り出す固定
観念を破壊して新しい創造に備える。
今回は、ヨーロッパからアジアへ海路
で巡った。ベニスを出航し、クロアチ
ア、ギリシャからスエズ運河を通り、
アラブのヨルダン、中東のオマーン、
そしてインド、スリランカ、マレーシア、
シンガポールまで。
文明も、民族や宗教、また文化や
芸術も異なる国々で、人々と触れ合い
その場の空気を肌で感じる時間にしたい
という思いを携えて出航した。
船内では呆れるほど本を読み、
寄港地ではひたすら歩き回った。
ますます速くなる変化、世界情勢の中
での日本、そして表現者としての自分の
役割を、何にも邪魔されず、じっくりと
見つめ直す時間を持つことができた。
この星に脈々と続く人間の営みの中
にある文化、表現を自分の心で受けとめた。
地球規模でアップデートして
次の創作に向かいます。

